

第2回 小郡市新総合体育館建設実施プラン検討委員会

<議事録要約>

■日 時:平成30年2月20日(火) 14:00~

■場 所:西別館3階 会議室

■参加者:

	氏名	所属
委員	見城 俊昭	副市長
	佐藤 吉生	小郡市体育協会会長
	大津 洋一郎	総務部長
	山下 博文	教育部長
	米田 管子	小郡市スポーツ推進委員会 会長
	福田 喜吉	卓球連盟 会長
	立石 政治	剣道連盟 会長
	原竹 博泰	弓道連盟 理事
	廣田 暢昌	ジュニアスポーツ関係者 代表
	福永 昌也	中学校校長会代表
	福永 美紀	障がい者スポーツ関係者 代表
	飯田 達也	公募
事務局	藤吉スポーツ振興課長、児玉財政課長、熊丸企画課長	
庶務	檜枝管理係長、大野事業係長、有田企画主査	



※ 公募の小田委員は欠席。

1. 開会

事務局長（スポーツ振興課長）より、今回の検討委員会の資料の確認と、議事録の作成に伴う録音について委員の了承をいただき、開会した。

2. 委員長あいさつ

前回みなさん方から総合体育館のことにつきまして、基本計画をふまえた意見をそれぞれの方からいただいた。

そのなかで、密に検討しなければならない事項がたくさん出てきたため、次回までに事務局の方で、最近整備された春日市の総合体育館と太宰府市の総合体育館を調査し、その資料を出していただきたい、ということで前回の会議を終わっていた。

今日はその結果を説明をし、それに対して討論をするのではなく、少し質疑・応答という形で進め、概要を一緒に共有したい。その後少し時間を置いて3月に、それに基づく討論、協議をしていきたい。

そうすれば、だいたい小郡市がめざす体育館の性格というものが明確になってくるのではないかと。

さらにそれを踏まえて、今度は我々が太宰府市の総合体育館と、春日市の総合体育館を、現地視察したい。

つまり、今日みなさんと一緒にそれぞれ共有した材料と、次回3月に協議した内容をもって視察をし、その後によいよ小郡の体育館の性格づけをやっていきたい。

3. 経過報告

事務局長より、前回11月28日の会議以降に、事務局で春日市総合スポーツセンターと、太宰府市総合体育館の視察を、それぞれ1月23日と2月2日に行ったことが報告された。

4. 議事

(1) 本市現体育館の現状と春日・太宰府両市体育館の情報

事務局より、作成した資料に基づき、下記の項目について、説明がなされた。

1. 春日・太宰府両市の新体育館の概要
2. 春日市への訪問
3. 太宰府市への訪問
4. 春日市・太宰府市への訪問を終えて ～事務局考察にかえて～
5. 新・旧 体育館の比較 春日市
6. 新・旧 体育館の比較 太宰府市
7. 新・旧 体育館の比較 小郡市（※基本計画と現体育館の比較）
8. 3市体育館 使用料金比較
9. 3市体育館 年間使用状況比較
10. 春日市・太宰府市体育館 建設にあたっての財源内訳
11. 管理費、空調関係 など

(2) 意見交流

事務局からの(1)の説明の後、委員長が各委員に対し意見を聴取した。

〈委員長〉 これからみなさん方に、質問なり意見なり感想なり、出していただくが、少し私の方から最初に申し述べさせていただきたい。

まず、太宰府のトレーニングルームには器具がないということについてだが、これは「トレーニングルームはやめよう」という考えで、見直しをしたということ。

トレーニング器具はおよそ5000万円ぐらいのイニシャルコストがかかり、それにトレーナーを置き、10人程度のシフト勤務で対応し毎日扱っていくと、その人件費は4000万円ぐらいになる。

そういうことから、太宰府は、トレーニングルームには器具を置かず、いわゆる体操とかができるスペースに、という形にした。

春日市の画像集のページの一番上に、メインアリーナと観覧席が写っているが、これが春日の特徴。

つまりメインアリーナのアリーナ部分は、本格的な大会、公式大会をできる広さのアリーナを確保しているが、観覧席は長椅子で、外せるような構造になっている。なぜかという、いわゆる災害時は避難所にしようという考え。木を使ったというのも一つの特徴だろう。



よって、観覧席が千人分以上になっているのも、長椅子を用いることで通常の椅子の観覧席に比べ、同じスペースで倍くらいの人数が確保できるようになっているから。

またトレーニングルームも、春日の場合、器具はインシヤルコストが5000万以上の、少しグレードが高いものを設置している。

これは、いわゆるトレーニングルームの性格は2つあり、1つはアスリートとして必要な筋肉を養成していく性格、もう1つは老化防止をするために、高齢者のみなさんが健康維持のために使用する性格があり、春日市はそれを複合でやっているためである。

小郡のあすてらすにあるトレーニングルームは、健康維持のためのものである。

つまり春日のように、アスリートとして必要な筋肉を養成していく性格も持たせるとすると、トレーナーの配置はダブル配置になり、さっき4000万のランニングコスト、10人ぐらいのシフト勤務と言った話が、おそらく1、5倍ぐらいになる。

次に太宰府市において、「新しい施設の使用料金については、フル稼働のランニングコストの50%を想定している」ということだが、この考え方がいわゆる総合体育館の料金設定に出てくる。

どうしてもインシヤルコスト・ランニングコストともに高いものになるので、少なくとも設置費は市がまかなうとしても、ランニングコストについては半分ぐらいは受益者負担の原則で設定する、という設定も考えなければならない。

それでも太宰府は想定以上の赤字に悩んでおり、オープンしてまだ1年しかたっていないが、すでに維持管理が難しいということで問題になっている。

建設費の予定価格より超過した分が、春日はたいしたことなくて太宰府は大きかった、ということ、これは2つ要因がある。

1つは総合体育館が、太宰府は市民が真っ二つに割れる論争になったために、コストを低めに設定をしたこと。もう1つは、東京オリンピック・パラリンピック等々、それから今、施設の老朽化に伴う新設や修理などで、非常に労務者が少ない。ということは労務単価が急激に上がったために、このような隔たりになっている。

今後小郡市が建設していく時も同じような状態で、基本計画の40億円ではおさまらない。太宰府ぐら



いの幅は見込む必要があるだろう。

6ページの太宰府の観覧席は、通常のコムプレックスの、アクリル製の10個1組のもの。

それから、空調費のエネルギー源として、太陽光が全国的に広がった。ところが、太陽光の買い上げ額が減ってきたため、インシヤルコストとランニングコストを考えると、あまり太陽光のメリットがない。逆に電気料金が下がってきている、ということから、若干これは情勢を見る必要があるだろう。

それから通常、コムプレックスというのは、屋外履きでそのまま入れる。で、アリーナだけ、競技場だけは、競技用の屋内シューズに替える、というのが一般的。

だが、春日市も太宰府市も、できるだけランニングコストを下げる、清掃費を安くするために、全てを土足禁止にしている、というところが特徴。

ただ、県外から来られる人たちが戸惑われる。もう一つは観覧者の方が上履きを持ってきてないから戸惑いがある、というのが現状。

3市の使用料の一覧表を見ると、ここがこの検討委員会の大きなテーマの一つになる。いわゆる料金を高くしてでも、それなりの施設をつくろう、そしてそういうような方たちに使ってもらおうとするのか、それとも、やはり金額が安い使用料でもって、市民のみなさん方の多くに使ってもらうのか、ということで違いが出てくる、ということ。

太宰府市はコムプレックスが政治課題になったので、結局中学校の中体連とか小学生が使う時は50%にする、ということにした。しかしながら全面使用2200円は50%でも1100円。小郡市の610円からすると、小学生・中学生でも倍ぐらいになる。大人になると4倍弱。春日市にいたっては、5倍以上になる。

このあたりはよくご検討していただきたい。

それから使用状況が伸びているが、これは当然。年数が経ち老朽化や狭小の問題が出てくると、たとえば一つの大会をするのに、コムプレックスではおさまらず、コムプレックスと学校の体育館の2会場で大会をするというのが、1会場で済むので、利用者数がコムプレックスでは増える。

よく考えると小郡市の体育館は古いが、よく使われているということも見えてくる。

最後に建設費の関係だが、国が出せる補助金は10%程度。これが伸びて行くというのは考えにくい。逆に下がっていく、というのが状況だろう。

起債というのは借金。基金というのは積立金、貯金。だから起債、基金、一般財源、これを足したものは市でまかなう。

それから空調関係のところ、媒体が電気の春日市の場合、月350万から400万

円ぐらいの電気料金が発生し、ガス利用の太宰府市の場合は、ピーク時8月で70万ぐらい、安い時は5～6万円ぐらいのガス料金、ということになるが、ちょっとこのランニングコストで単純に比較するのは難しい。

だから、空調の媒体というのはどちらにしても、エアコンの導入はそれなりの覚悟が必要。その割に、観覧者は「エアコンがほしい」と言うが、利用する人の大多数であるアスリートは汗を流すのに慣れており、「1時間1万円使うんだったらがまんしよう」というのがあって、春日も太宰府もなかなか利用率があがっていない。

そういうことを踏まえ、今から一人ひとり感想と質問ということでお願いしたい。

- 〈A委員〉 まず感想からということになりますと、やっぱりりっぱな施設だな、と思う。
そうすると こういったランニングコストなどもかかっているのかな、と思う。
また、私どもの方では、建物を分散させるのではなく、一つの建物の中にコンパクトにまとめるというのも、一つの手法なのかなというふうに感じた。
- 〈B委員〉 説明を聞いて、まだ見たことがないので早く見に行きたいと感じた。
また、やはり空調の問題は難しいと思った。
- 〈C委員〉 この2つの体育館の情報はとても参考になった。
まずは維持に苦労しないようにしないといけないと思う。
新たに建設したことが成功している例をお手本にするためにも、さらに全国的に見て他にも成功しているような例があれば知りたい。
- 〈D委員〉 実際的にこのへんの市町村で、体育館が新しくできている、実際に稼働してるここ1年か1年足らず感じのものでは、ランニングコストなどは、どのように検討しているのか。
自分としては観覧席の設置の方式や、素材が一番気になる。
また、緊急の場合は避難場所という関係もあるから、その点も考えていきながら、考えていかなければならないのではないかな。
- 〈E委員〉 今、この貴重な資料を読んで、建設費とランニングコストの問題が一番わかってきた。
確かに空調設備は不必要かもしれないと思うけども、今から夏場の暑さとかを考えた時に、規模は別としていきなり無視はできんかなという気がした。
もう1点、太宰府と春日の弓道場のことだが、春日の方は新しい体育館の中にできているが、太宰府の方は野球場とかある横に、立派な道場がある。
- 〈委員長〉 太宰府には、その他にも天満宮にも弓道場がある。
- 〈F委員〉 春日市と太宰府市の資料を見たが、春日の方は既存の施設をまとめてした、太宰府の方は既存の施設が残っているということで、同じようにそれを小郡として参考にするのは、

ちょっと難しい…したがって太宰府の場合は、今の新しい総合体育館だけで判断をすると、赤字という形になると思うので、既存の施設の稼働率も全部入れたなかで、どんなふうになっているのか、というのを見てみたいと思う。

県内だけでなく県外の、他の最近できたような施設とかの資料も参考にして、考えていきたいな、というふうに思っている。

それと今日載せていただいた写真を見ただけでは、ちょっとわかりにくい面もあるので、今度の視察の時に見て、きちんと見たうえで、今後の協議につなげていきたい。それぞれの体育館の雰囲気とか、施設の利用者の様子、あとアリーナとか弓道場など…設備なども実際に視察したうえで、今後の協議の参考にしていきたい。

〈G委員〉　　うちの基本計画を見せていただいた時も、とてもすばらしいと思ったが、両方（の市）とも事業方式というのが、「公設民営」となっている。で、小郡市は、これをどういう事業方式とするのか。

また、赤字が出ている体育館とかがあるということだが、うちの場合は使用料も含めてどうなるのかということも、ちょっと、お話とかうかがえたらな、と思う。

〈H委員〉　　細かいところまでよく調べていただき、そこまでの比較がいるんだな、ということが理解できた。

いくつか質問があるが、1 ページでは、今、公設で民営化された場合、赤字とか、大会・興行、たとえば民間会社がイベントをする、と、そこに市民体育祭のような公的なイベントと重なった場合はどうなるのかという、民営の時の条件とか、いろいろあるんだろうと思うが、そういった棲み分けはどうなるのか。

2 つめは、両市の基金の積み立ての開始を10数年前から始められたようだが、それは体育館に特化された積立が始まったのかなということ。

続いて8ページの観覧席についてだが、500 から1000 というところで民営化したことを考えると、客数、座席数が少なかったら興行収入は得られないということになる。

だからそうした面からは、1000程度では困ることになりはしないか。

また、防災関連の施設というのは、室内または備蓄倉庫などが関連して置かれるのかな、ということ。なんかの時にはそこに避難をされてこられ、市全体の指令なども、そこから行くようになるのか。そうであれば、関連して、横に小さなプレハブでも造ったりすることは考えられているのか。

料金の比較で、たぶん次回以降には料金表の設定課題となると思う。その際には、使用人数、ランニングコスト、収入、市からの支出など、いろんな面から計算したりしながら、考えていかなければならないのかな、と。

〈I委員〉　　私は春日の方がすばらしいと思うが、建設費の問題で小郡はここまではできないだろうと思う。やるならば、会長あたりも言っておられたように、トレーニング室は1つにまとめたがいい。全体的にはもう、春日の方がはるかにいい。しかしこれほど立派なもの、建設費の問題があるため、小郡ではできないだろう。

〈J 委員〉

お金の件、これが一番心配。他のところはちゃんと基金がある。小郡市は基金に相当するものをどのように考えてあるか。いくら理想的なことを言われても、最終的には金につながると思う。

わからないのは、プロの大会などで、市外とかいろんな選手を集めて大会をやるのと、純粹に市民が日ごろの使用をしているのを、一緒に考えているのか。たとえばこの、市民一人あたりの年間の使用、何人使ったか、だが、これは大会の日に500人入ったとしても、日ごろ一人あたりの市民がどれだけ使用しているかというのとは違うのではないか。なぜあげているのか。

そして私たちも（現在の）体育館をつくる時に、剣道連盟ですと「大原合戦」とか、ああいう規模を考えて要望したが、現実として市民は使っていない。陸上競技場とか見ても、維持管理をするためなのか、選手を寄せたイベントなどを行っているが、実際の市民はあまり使っていない。だからどうすればいいか、というのはわからないが、本当に自分たちが使う、ということでは積然としないものがある。

また、使用料の問題で、私たちの頃は体育館を使うのはタダだった。すると「自分達の道場」という意識で、掃除とかちゃんとしていた。今は、お金とられるから、子どもたちもモップで、ちょっちょつとするだけ。そういう意味でも、使用料というのは大いに問題があるうえに、この通りになって（注・「もしも基本計画の通りになって、建設費がかかった分、利用料金が高くなれば」という意味）、自分達は日頃の稽古は借りれるかな、と。そのへんが心配。お金の件が一番心配。

〈副委員長〉

私からは2点。

一つは、防災。今、防災施設は非常に必要な施設として、言われている。その防災兼用で、なにか資金ができないか。今ここに写真にあるように、観覧席をそういう防災にも兼用できるように…そうすると、予算を要求するにしても、「こういうものを兼ねていますよ」ということで、議会にも説明するのにも、いいのではないか。

もう一つ思ったのが、先ほども何人か言われましたが、公設民営の件についてだ。

建設当時に費用がなければメインをしっかりしたやつをつくれば、あとで手当てができる（注・増設することもできる、という意味）と思う。いろいろ方法はある。そして50年ぐらい使うつもりでつくっていただきたい。

その時に、公設民営で果たして維持管理費を、今から先ずっとかかってくるが、いろんな弊害が、ひょっとしたら出てくるかもしれない。

だから、今、公設民営でしている自治体の例をもう少し、調べたり聞いたりしてみて、今後10年後の維持管理費が、そんなに変わってないなら、いいと思う。

〈委員長〉

いくつか感想と質問等があったので、後で事務局の方で回答してもらおうとして、私の方でわかる範囲はコメントしておきたい。

まず太宰府は成功しているのかということについては、もう少し見ないとわからない。太宰府は、事前にどのような性格の体育館にしようかというのを議論していない。つ

まり、総合体育館をつくるかつくらないか、という議論だったので、総合体育館は必要がないのか、必要があるのか、ということで、結果的に、落とすところに落として、金額を下げるとか、多目的に見せるとか、そういうことでできあがった、多目的というのは、多様に使えるからいいように思えるが、実は全てに対して中途半端。

今度行ってみられればわかると思うが、(移動式の)観覧席が(壁面の倉庫から)出てくる。よくテレビでテニスの決勝戦だとか、有明アリーナとかのように、真ん中にテニスコートがあって、まわりに観覧席がある、あのような感じで…そんな使用を誰がするのか。議論が不足しているということ。

それから、結果的に今の段階では、(春日市の場合)メインアリーナとサブアリーナの稼働率だけ見ると、サブアリーナの方が高い。これは市民の利用者というのは、公式のサイズがあるとか、観覧席があるとか、そんなことは必要なくて、自分たちが練習したりするスペースが確保されればいいことを示しているのではないかと。太宰府はそれをお金の問題から削った、と。

また、太宰府には既存施設が残っている。これは総合体育館建設反対派の主張で、3つの既存の施設があるからサブアリーナは不要、という考えにつながった。

そしてメインアリーナだけにした。今のところ結果として、メインアリーナだけしか持っていないから利用率があまり上がらない。それにも関わらず、メインアリーナに一番ランニングコストがかかるので、維持管理費に どうしようか、ということで頭を抱えている。

それから、春日・太宰府以外の事例について、事務局は追加で調べることに。私の知る限り、総合体育館と呼べる施設を有しているのは、人口が10万規模の市では、春日と太宰府くらい。あとはエアコンがなかったり、サブアリーナがなかったり、トレーニングルームがなかったり…という形ではなかろうか。飯塚市も新しい体育館を建設することが決まったが、どのような形になっていくか決まっていない。

公設民営化の件が言われたが、春日市の場合コナミスポーツクラブ、西日本新聞イベントサービス、そして管理運営はイオンデライト、という組み合わせで企業体をつくってやっている。

注目してほしいのは、西日本新聞イベントサービスの役割。実は、競技スポーツの体育館を運営管理できる企業はない。なぜかというと、大会をすとなると審判員が必要となる。その審判員は公式の審判員でないと、大会はできません。それをすとなると、審判員は雇わねばならず、その分コストがかかってくる。結局、競技団体と話をし、協力をしてもらおう形になる。

ゆえに、総合体育館の公設民営で、一番機能的に成功しているのは、体育協会が法人化してやっている北九州、久留米など、いくつかあるが、それは体育協会の下に競技団体があるから。

ひるがえって、トレーニングルームを運営管理する、ということになると、今度は体

育協会あたりでは無理だろう。この分野は日進月歩の世界で、長寿命化もあってトレーニングメニューはたくさんできており、毎日毎日研究してダイレクトに利用者の方々に反映されるような仕組みや専門家が必要となる。コナミはそういうものである。

だから小郡の、体育館ができあがった時の結論を言えば、公設だけではできない。市の職員でも、体育協会だけでも、できない。やはり民間とも組んで、それぞれの長所を生かしながら、やっていく必要がある。一般的な施設の管理運営から議論していくだけでは、実際はそうはならないこともある。これはよく考えなければならない。

基金の設立は言われた通り。体育館のために、早くから、まずお金を積み立て、お金の確保をして、目安がたった時に建て始めた、ということが、調査の結果わかったこと。小郡の場合はそれが0。全く積立金がないため、お金の問題もゼロベースで考えなければならない。

太宰府の備蓄倉庫については、これも体育館の多目的利用のなかで防災機能を付加させて備蓄倉庫をつくったのであり、あそこが備蓄倉庫の拠点でよかったかという疑問。あそこは太宰府で一番道路事情が悪く、たとえば備蓄した物品を天満宮の裏側のところにもっていこうとしてもすぐには届かない。防災機能として立地を考えたわけではない。

小郡の新体育館は、道路事情等諸々考えても、防災機能が成立しうるだろう。

最近太宰府にある九州産業高校が、創立50周年記念事業で体育館を建て直した。地下にあたる1階は、武道室などがあるが、実は北朝鮮から（ミサイルが）飛んできた時に避難する場という構造になっている。だから、そういうような機能をもった体育館もある。

それからトレーニングルームの必要性については、ぜひ議論していきたい。必要があるのかないのか、今答えを出すのではなく、ぜひ議論を。

当初からみなさん方をお願いをしてきたのは、体育館の性格づけ。大きな大会を誘致して、大会を開催するというような総合体育館をつくろうということなのか、市民のスポーツ振興をさらに深めるための体育館にしようと、市民がより利用できる体育館にしようというのか、はっきりしておかないと、できあがってもなかなか難しい課題ばかりになると思う。検討委員会として、しっかり議論していきたい。

使用料の問題は、当然の課題。そのうち、清掃とかいう関係は、減免をして自分たちの大事な施設という認識ができれば、1年に1回ぐらい自分でワックスでも…という気持ちにつながるが、1時間1万円の使用料となると、「冗談やない、あんたたちの仕事やろう」となるだろう。そういうのがいいのか悪いのか。利用者は利用しっぱなしでいいのか。それとも体育館はスポーツ施設の核・殿堂・拠点施設という見方で、自分たちの道場という意識につなげ、自分たちで守り育てていこう、という気持ちになるように

するのか。

そのへんのところはぜひみなさんと協議したいが、まずは説明があった部分について、次の3月までに考えておいていただきたい。その時、今度は少し討論をする。意見は違っていいわけで、むしろ意見が違わないといいものではない。しっかり討論して、ある程度知識（メリット・デメリットも含めて）をもって、太宰府・春日市に出向くことで、物見遊山ではなく見えてくるものがあると思う。それが終わった後、本格的に小郡の体育館はどうあるべきかを議論したい。

次に、せっかく事務局もいるので、こちらからも感想を聞きたい。

〈事務局1〉 施設については、春日・太宰府ともまだ行ったことがないが、うきは市の方に行った時、これくらいの規模で20数億、というイメージを元に、頭の中で太宰府・春日のことを想像しながら聞いた。補助金については、こういう「ハコモノ」というのが批判されてからは期待できないと思っていたが、やはり1割ぐらいか、というのが感想。

この体育館をどういうふうな性格のものにするのか、というのが非常に大切であると感じた。それを定めてから、最終的に規模や財源、そして場所などを整理していったと感じた。

〈事務局2〉 補助金の問題では、建て方によって、もう少し違う資金を調達できないかなというようにも考えている。施設が高く、大きい、いいものとなると、利用料にはねかえっていき、そうすると市民の方が使う機会が減っていく。それをどのような形で調整するのか。少々考えてみると、久留米など近くに大きな体育館があるので、大きな大会はそちらで、小郡の新体育館は小郡市民が使い易いものにしては。小郡市には、陸上競技場が大きい体育施設としてあり、ここはよく近隣地域の方も使われていて貢献しているので、新体育館は小郡市民の使い勝手のいいものとしては。

空調のエネルギーに関しては、春日・太宰府市は都市ガスが通っているために接続ができたのではないかと。そうしたインフラ整備から考えると、またコスト的なものも上がってくる感じがする。

〈事務局3〉 副市長が、意見質問についてはいろいろおっしゃっていただいたので、運営面で担当者から聞いたことをお伝えしたい。やはり民間の方で運営しているので、やはり公的施設としての総合体育館、という観点からの運営、例えば市民が利用しやすいための運営等については、わからないことが多く、なかなか習得するまでに時間を要するとのこと。また、つつい民間の経営感覚のなかで、いろんな教室とか事業とかやってしまうので、そこに行政の意図が反映されていないケースが見られるため、打ち合わせは少々頻繁にしなければならない。

失敗・成功という話があったが、新しい体育館になるので、非常に喜ばれている意見も多い。ただ実際に、「逆に利用しにくくなった」とか「不便になった」という声もあり、

どちらの意見もある。新しい施設だから100%いいというのではなく、賛否両論どちらの意見もある、とのことであった。

感想としては、せっかく小郡市の体育館をつくるのだから、できるだけたくさんの市民の利用を望む。せっかく新しくなっても、使用料の問題などが関係してあまり利用されていないというのではなく、市民の方に利用しやすい体育館をつくっていききたい。

参考までに、26年度に「小郡市スポーツ推進基本計画」策定の折、市民2000名に対してアンケートを行い55%ぐらいの回答率であったが、そのなかで「小郡市のスポーツ施設についての不満」として、「施設の老朽化」と「身近に利用できる施設が少ない」が、それぞれ1/3程度、また「小郡市スポーツ施設で、改修や整備が必要と思う施設」という質問に対しては、体育館が36.9%と一番高かった。そのようなアンケートの回答からも、現在の体育館を整備していく必要性は高く、みなさんが満足のいくような施設にしていききたい。

〈庶務 a〉 一応、事務局の感想は7ページの方で少し述べさせていただいたが、どうしても、大きなハコモノということで、大きなことばかりに目が行くが、用具の出し入れで壁に傷がつくことを考え、どんな色にしたらいいのか等、細かいことも考えることの大切さを感じた。他にも、窓は開口部が広いと、特に上の階は危険であるとか、障がい者の方に対する割引や施設面でトイレとシャワーは使い易いように隣接させること、キッズスペースにも隣接して、授乳スペースや子ども専用のトイレを配置する等の細かい配慮が参考になった。

〈庶務 b〉 体育館の性格付けでは、一番核になるものは、興業中心の運営をめざすのか 市民利用を中心に考えた施設にするのかであると思う。そのために、現状では提供できる情報等も限られているが、より多くの情報を提供できるようにしたい。

〈庶務 c〉 他施設を見るといい面は見えてくるが、実際使用する際のデメリットも見出ししたい。障がい者、高齢者、子どもなど、それぞれの使う立場に立っての視点で見たい。また、防災機能など体育施設以外の活用方法も含め、いろいろ検討をしていきたい。

〈委員長〉 ありがとうございます。

今日は討論しないということにしたので、今回のみなさんのそれぞれの感想、お聞きになった他の方の感想などを振り返ったり、資料を見直したりしながら、ご自分の意見をまとめておいていただき、次回はそれを元に討論したい。

また、事務局の方に宿題を出しておく。

県内の市+鳥栖市の、総合体育館の有無を調べること。総合体育館の定義はなかなか難しいが、ここはメインアリーナがあって、サブアリーナがあって、トレーニングルームがある、というこの3点セットを有しているものとする。県内の市と鳥栖市ではどうなっているか調べておくように。

次に、総合体育館と言われない体育館でもいいが、直営以外の方法でやっている体育館

がいくつかあるとか、直営以外の方法はどうなっているか これが2つめ。

3つめは、春日市の体育館の中に入っている体育協会と、スポーツ少年団と、総合型スポーツクラブの事務局の意見を聴いてくること。できれば太宰府も。つまり実際にスポーツをやっておられる方が、そしてその組織が、今の体育館に対して、どんな思いがあるのか…どんな不満があるか、いいところはどんなところなのか等…を聞いて、資料としてまとめておいてほしい。それも、十分討論の材料になるんじゃないかなと考えている。では、2番目の意見交流はこれで今日は終わらせていただく。

(3)今後の「小郡市新総合体育館建設実施プラン検討委員会」開催について

事務局より次回の日時について提案を行ったが、時期が近いうえに年度末でもあり、すでに予定が入っている日が多く、若干調整が必要であったが、3月28日水曜日の午後2時に決定した。

なお、文書については原則1ヵ月前には届くように前回お伝えしたが、今回出された意見を集約した資料も同封しなければならず、それを作成する時間もあるため、遅れることを了承していただく。

5. その他

〈F委員〉 一つ要望がある。

次の会も、協議でたぶん2時間ぐらいになると思うので、休憩をぜひ入れていただきたい。ずっと手話を2時間見続けるのは非常にきつい。5分でいいので、お願いしたい。

〈委員長〉 了解した。

〈E委員〉 昔は体育館にはよく暗幕があったが、あれにはどのような理由があったのか。

〈委員長〉 一番の理由は、バドミントン・卓球。これらの競技は白球を使用することから、太陽があたると光って見えなくなる。

卓球は最近ユニフォームがカラフルになったり、黄色い卓球ボールも出たりして、競技団体の方が少し工夫されている。昔、暗幕があったのはそういう理由。

〈E委員〉 了解した。



6. 閉会